

適用可能な壁高さ 耐荷重2500N/m²仕様 (実験結果に基づく)

最大壁高さ	8.2m	7.6m	6.6m	8.2m	7.8m	7.2m	7.3m	6.7m	
スタッド設置間隔	@ 182	@ 227.5	@ 303	@ 182	@ 227.5	@ 303	@ 182	@ 227.5	
適用可能なせっこうボードの仕様	両面張り			片面張り			両面張り(片面耐火・片面仕上)		
対応する荷重方向									

※ 耐荷重 2500 N/m²仕様を適用するには、計画する間仕切り壁の構成に対応した試験結果報告書を参照の上、要求される荷重方向や採用する耐火認定工法への適合、ならびに計画する壁高さにおける耐荷重性能をよくご確認下さい。
※ 目透かし仕様は、要求される荷重方向により構造性能に影響を与えるため、適用可否については施工要領書をご確認下さい。

適用可能な壁高さ 一般的な間仕切り壁仕様の一例 (許容応力度設計)

最大壁高さ	8.9m	8.4m	7.8m	7.0m	9.0m	8.7m	8.0m	7.2m	8.7m	8.2m	7.7m	
スタッド設置間隔	@ 182	@ 227.5	@ 303	@ 455	@ 182	@ 227.5	@ 303	@ 455	@ 182	@ 227.5	@ 303	
仕上材の仕様例	両面張り				片面張り				両面張り(片面耐火・片面仕上)			

※ 設計用水平震度 1.0、地震時の慣性力による変形時の許容撓み量 1/100 以下、耐面外力 150 kg/m、耐面外力による変形時の許容撓み量 1/200 以下とした場合。
※ 上記はスタッド単体を対象とする算定結果に基づくものであり、仕上材の仕様の違いによる荷重方向の制約はありません。

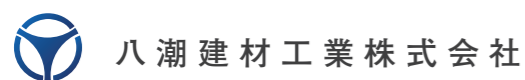
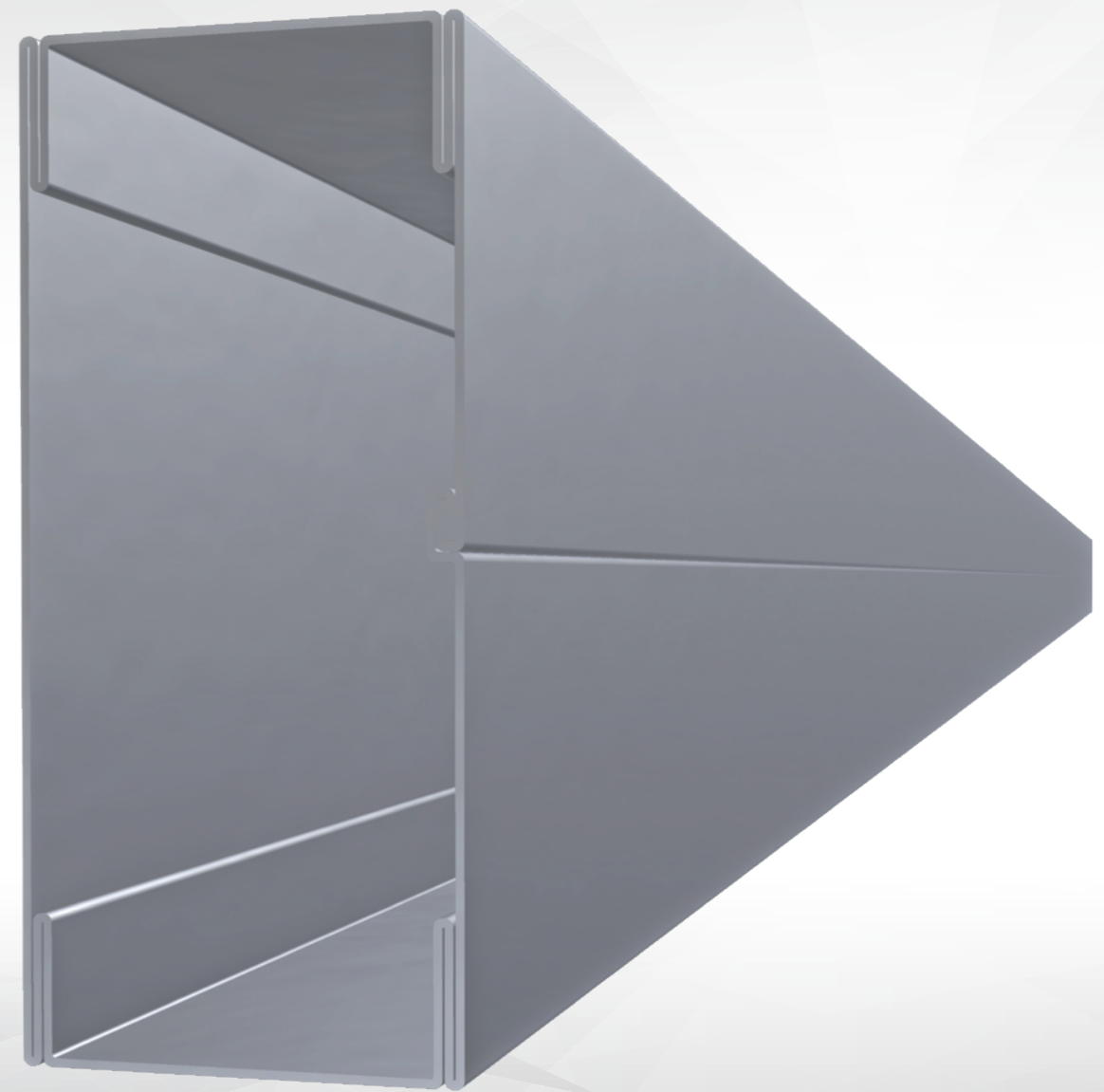
断面性能

部材名	寸法 H×W×t	単位重量 kg/m	断面積 A mm ²	断面二次モーメント		断面二次半径		断面係数		
	mm			I _x mm ⁴	I _y mm ⁴	i _x mm	i _y mm	Z _x mm ³	Z _y mm ³	
マッシブスタッド	100 × 45 × 0.9	2.914	355.7	465170	141000	36.16	19.91	9300	6265	

※ 本工法の適用を検討する際には、壁高さやスタッドの設置間隔等は設計クライテリアに応じて、適切に設定して下さい。
※ 本工法は、従来の軽量鉄骨間仕切り壁と同様に、せっこうボード等の仕上材と軽量鉄骨下地材を用いた間仕切り壁の構成を踏襲しており、間仕切り壁が終局に至るほどの外力を受けた場合には、仕上材の脱落の危険性を伴います。
※ 鉄骨造折版屋根の平屋や最上階等、地震時に大加速度応答を来す可能性のある部位等への適用に際しては、間仕切り壁を設置する構造躯体や、間仕切り壁自身の応答性状にも十分に留意した上で適用可否を判断して下さい。

Massive-Wall

マッシブウォール工法



八潮建材工業株式会社

本社
〒130-0022 東京都墨田区江東橋 2-3-10
Tel 03-3631-7151 Fax 03-3631-3207
<http://www.yasio.jp>

倉庫業法対応(耐荷重2500N/m²)
施行規則第3条の4第2項第2号



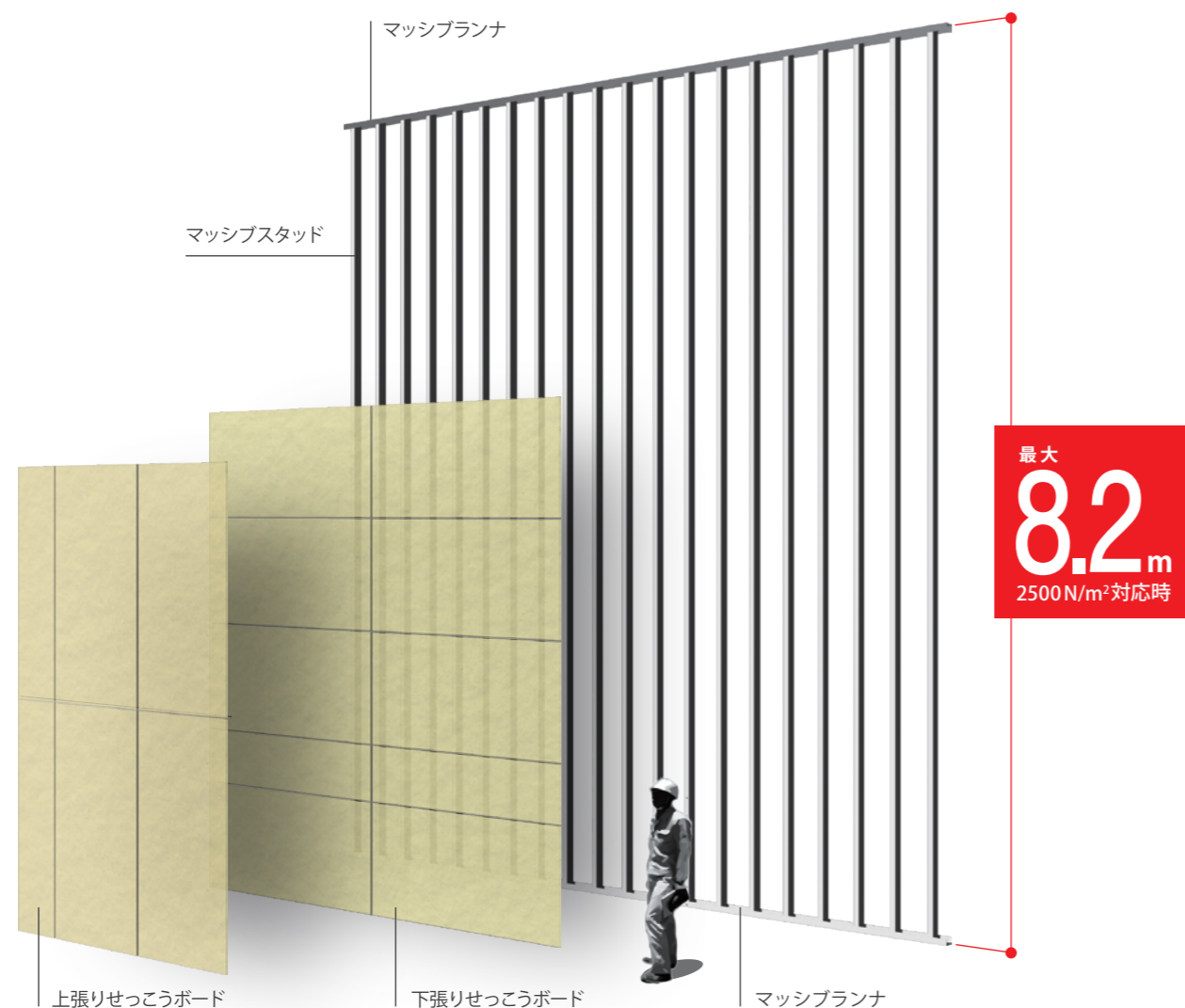
八潮建材工業株式会社

高強度な間仕切り壁工法

第三者機関*1にて耐荷重実験を実施！最大8.2mまで耐荷重 2500 N/m²を確認！

※1 一般財団法人建材試験センター（JTCCM）

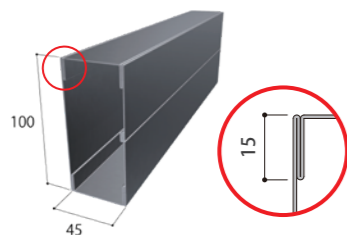
構成図例



部材一覧

完全受注生産品

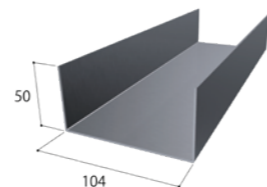
マッシブスタッド



JIS G 3302 SGH400 又は SGC400
※特許取得済

t=0.9 mm

マッシブランナ



JIS G 3302 SGH400 又は SGC400

t=1.6 mm

ランナは所定のあと施工アンカー等（別途工事）により堅牢に留め付けて下さい。詳細につきましては、標準施工要領書をご確認下さい。

Massive - Wall

マッシブウォール工法

構造実験



一般財団法人建材試験センター（JTCCM）にて性能を確認

品質性能試験報告書

発行番号：第 23A1854 号



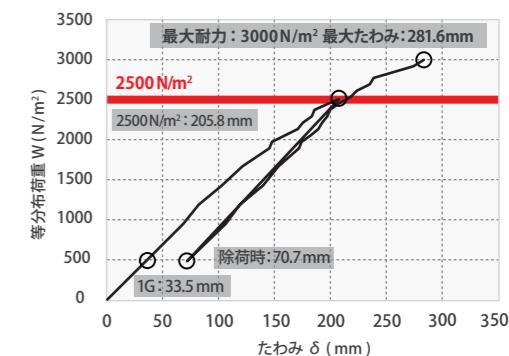
試験方法



試験体の壁高さ H を 20 等分、幅を三分割し上図に示す
①～⑩の順番で各グリッドにおもり（鉛袋）を載荷した。

試験結果の一例

ex. 片面張り (GB-F t21mm×2 枚) 8.2m @182



工法の特徴

高強度

最大 8.2m^{*} の壁高さまで、耐荷重 2500N/m²に対応可能。
※せっこうボードの仕様により異なる

優れた施工性

板厚を抑えて断面性能の向上に成功。
従来のタッピンねじでボードのビス留めが可能。

工期短縮

角スタッド工法により振れ止め不要。
5mを超える壁高さへの適用により、中間梁の設置工程を省略可能。

従来通りの意匠性を実現

マッシブスタッドのせいは従来100形スタッドや角スタッド同様
100mm、壁厚の変更は不要です。